浜松市保健環境研究所だより

第 １４ 号 「ジカウイルス感染症について」 ２０１６．８

２０１４年に、国内感染によるデング熱が約７０年ぶりに確認されましたが、今年度は同じく蚊に刺されることで感染する疾病、『ジカウイルス感染症』が話題となっています。現時点で国内感染はありませんが、海外旅行の際には十分注意する必要があります。

今回は、この話題の感染症について、どのような注意をしたらよいのか、また、浜松市ではどのような取り組みを行っているのかを紹介します。

目次

どんな症状がでるの　１ページ
どのようにして感染するの　１ページ
海外旅行で気を付けることは　２ページ
国内でしておくべきことは　２ページ
感染について不安な方は　２ページ
浜松市で行っていることは　３ページ
その他にどんな病気があるの　４ページ

どんな症状がでるの

ウイルスに感染しても、約８０％は発症しないとされています。潜伏期間は２～１２日で、発症した場合は、軽度の発熱、発疹、結膜炎、筋肉痛、関節痛、倦怠感、頭痛等の症状が出ます。

妊婦に感染した場合は、胎児にも感染し、小頭症などの先天性障害を起こす可能性があるとされています。

どのようにして感染するの

ジカウイルスを保有する蚊に刺されることで感染します。アフリカ、中南米、アジア太平洋地域で発生があり、近年は中南米やその周辺地域で流行しています。２０１５年以降、６２の国と地域で蚊からの感染が報告されています。

日本にはウイルスを保有した蚊はいませんが、海外で感染した症例が１０件

確認されています（７月２２日現在）。
　ウイルスを媒介する蚊の種類は、ネッタイシマカやヒトスジシマカ等で、ヒトスジシマカは日本のほとんどの地域（秋田県及び岩手県以南）に生息しています。
　ウイルスは、ヒトからヒトに飛沫等で感染することはありませんが、稀に輸血や性行為で感染したケースが報告されています。

海外旅行で気を付けることは

　ウイルスに対する予防薬や治療薬はありません。流行地では蚊に刺されないようにすることが重要です。長袖・長ズボンを着用して、肌を露出しないようにしましょう。また、肌に塗布する蚊の忌避剤（虫よけ剤）も有効です。日焼け止めを使う場合は、先に日焼け止めを塗ってから虫よけ剤を使用してください。

　妊婦及び妊娠の可能性がある方は、流行地への渡航を控えた方がよいとされています。流行地から帰国した男性は、症状の有無にかかわらず、最低８週間はコンドームの使用といったより安全な性行動が推奨されます。
　８月５日からオリンピックが開催されるブラジルも発生が報告されていますので、観戦等で渡航を予定されている方は、忌避剤を持参しましょう。

国内でしておくべきことは

　今は国内での感染が無くても、２年前のデング熱発生の時のように、いつ日本にウイルスが入ってくるかわかりません。そのために今できることは、蚊の発生を減らすことです。
　成虫の対策としては、下草を刈り、ごみを片付けて風通しを良くし、日光が当たるようにします。
　幼虫の対策としては、ヒトスジシマカの幼虫は小さな水系を好む性質があるため、古タイヤ、空き缶、ビニールシート、墓地等で見られるような、常時水がたまっている場所を無くす必要があります。

感染について不安な方は

　流行地でも、すべての蚊がウイルスを保有しているわけではないので、過分に心配する必要はありません。流行地で蚊に刺され、帰国後に発熱等の症状が現れた場合は速やかに医療機関を受診してください。
　当研究所では、医師がジカウイルス感染症の疑いが強いと判断し、保健所を通じて依頼の

あった患者の検体（血液や尿）について、遺伝子増幅法（リアルタイムＰＣＲ法）という方法を用いてウイルスの有無を検査しています。

検査の流れ

検体の前処理（遠心分離等）

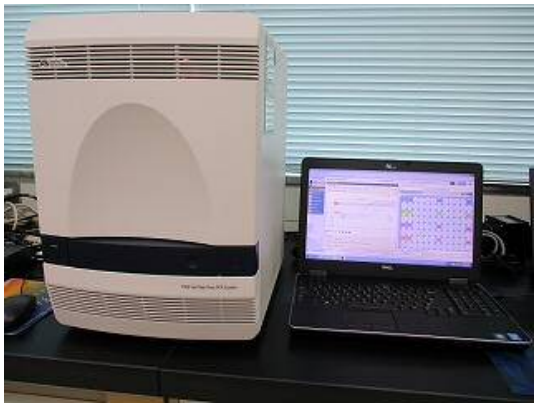
⇩

ウイルス遺伝子の抽出

⇩

ウイルス遺伝子の増幅・確認

遺伝子増幅装置



浜松市で行っていることは

今年度浜松市では、蚊の発生が多い６月から１０月の間、浜松城公園において蚊を捕獲し、ヒトスジシマカの生息数の増減を調べるとともに、蚊がデングウイルス及びジカウイルスを保有していないか検査を行っています。

人囮（おとり）法による蚊の捕獲

蚊の生息数は、人囮（おとり）法といって、８分間人がおとりになって静かに立ち、近寄ってきた蚊を採取するという方法で捕獲し、顕微鏡でオス・メスや種類を確認します。

採取した蚊については、人を吸血するのはメスのみであるため、メスを集めて検査を実施します。

蚊を集めてすりつぶした後、蚊体内のウイルス遺伝子を抽出し、前述の遺伝子増幅法でウイルスの有無を確認します。

検査に使用する、捕獲された蚊

６・７月の結果は下表のとおりで、いずれも蚊からウイルスは検出されていません。

『浜松市における蚊の調査結果』

調査月	６月			７月		
調査場所（浜松城公園内）	ヒトスジシマカ（メス）捕獲数	ヒトスジシマカ（オス）捕獲数	ウイルス検査※（デング・ジカ）	ヒトスジシマカ（メス）捕獲数	ヒトスジシマカ（オス）捕獲数	ウイルス検査※（デング・ジカ）
せせらぎの池南側	０	０	実施せず	０	０	実施せず
中央芝生公園西側	０	０	実施せず	１	０	陰性
日本庭園周辺	２	１	陰性	９	０	陰性

※ウイルス検査はヒトスジシマカのメスについて実施した。

その他にどんな病気があるの

蚊によって媒介される感染症は、他にも多くの種類があります。ほとんどは国内感染が無い疾患ですが、海外では多発している地域もありますので、蚊に刺されないよう十分な対策をしてください。

【デング熱】

ヒトスジシマカ等がウイルスを媒介。発熱、頭痛、筋肉痛、発疹等の症状を示す。多くは１週間程度で回復するが、重症化するとデング出血熱で死亡することもある。年間約１億人が発症し、約２５万人がデング出血熱を発症すると推定されている。

【チクングニア熱】

ヒトスジシマカ等がウイルスを媒介。発熱、関節痛、発疹等の症状を示す。アフリカ、南アジア、東南アジアで発生している。

【日本脳炎】

コガタアカイエカが媒介し、豚の体内でウイルスが増える。近年国内での感染・発症者は１０人以下。感染しても多くは無症状で終わるが、発症した場合死亡率は２０～４０％で、生存しても後遺症を残す場合が多い。ワクチンによる予防が重要。

【ウエストナイル熱】

イエカやヤブカ等がウイルスを媒介し、鳥と蚊の間でウイルスが行き来している。アフリカやアジアの他、ヨーロッパやアメリカ等でも流行が発生している。発熱や筋肉痛の他、脳炎を発症することもある。

【マラリア】

ハマダラカが媒介する、マラリア原虫（寄生虫）による熱性疾患。毎年２億人以上が感染し、２００万人以上が死亡するとされている。